

# 看護・保健科学研究誌に掲載された 学術論文のキーワードの分類等に関する研究

橋本和子

高知大学医学部看護学科 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

## Classification of keywords in scientific papers published in the Journal of Nursing Health Science Research

Kazuko HASHIMOTO

Department of Nursing Science, Kochi Medical School, Kochi University  
Kohasu Oko-cho Nankoku-city, Kochi 〒783-8505 Japan

### 要約

1. 研究の目的は第1巻～第7巻までの「看護・保健科学研究誌」学術論文のテーマの領域、全著者の所属、筆頭著者の所属、論文テーマと著者、キーワードの分類等を行うことによって、本著書の価値を見出し、今後の看護学の発展につなげることである。
2. 全著者の78.1%が教育研究機関に所属していることが特徴である。
3. キーワードの分類A：カテゴリー別に分類した。  
1.環境、2.人、3.教育・キャリア、4.ケア実践・能力、5.疾患・医療、6.身体、7.健康・自立・生活、8.自己・心理・情動、9.家族・養育・役割、10.その他  
キーワードの分類B：看護学教育の系統別に分類した。  
1.看護教育、2.看護管理、3.老年看護、4.母性看護、5.小児看護、6.地域看護、7.成人看護、8.家族看護、9.精神看護、10.学校保健、11.在宅看護、12.環境保健、13.その他

### Abstract

1. To find the values of the book and contribute to the future development of nursing science, I reviewed volumes I to VII of scientific papers for the areas of study themes and the organizations of authors and principal authors, and classified study themes, authors, and keywords.
2. It is notable that 78.1% of all authors belong to educational/research institutions.
3. Keywords classification A: Categorized by study  
1) Environment; 2) Human; 3) Education, Career; 4) Care practice/ability; 5) Diseases, Medical care; 6) Physical; 7) Health, Independence, Life; 8) Self, Mentality, Emotion; 9) Family, Nurturing, Roles; 10) Others  
Keywords classification B: Categorized by systems in the education of nursing science  
1) Nursing education; 2) Nursing management; 3) Elderly nursing; 4) Maternal nursing; 5) Pediatric nursing; 6) Community nursing; 7) Adult nursing; 8) Family nursing; 9) Psychiatrist nursing; 10) School healthcare; 11) Home nursing; 12) Environmental healthcare; 13) Others

キーワード： 看護・保健科学研究誌、学術論文、全国看護管理・教育・ケアシステム研究会、  
キーワードの分類

Key words : Journal of Nursing Health Science Research, Scientific Papers,  
The Japanese Association of Nursing Management, Education and Care  
System, Key Words Classification

## 緒 言

「全国看護管理・教育・ケアシステム研究会」は創立して10年、その間、学術論文誌を11誌発刊した。創立から現在までコツコツと力を蓄積し、看護学の学術的価値を評価されるようになってきた。2001年3月に「看護・保健科学研究誌」第1巻を発刊したが、2005年発刊の第5巻以降から論文の応募数が急増した。このことは、看護研究の究極の目的を達成するための取り組みが活発になっていることを意味する。

本研究会は、全国の看護教育に携わる教員、または臨地で実践している看護専門職が、相互に意見交換、情報の共有化を図り、看護管理、看護教育、地域ケアシステムに関する課題の検討、研究成果の発表、学術論文誌の発行等により、保健医療福祉の増進に寄与することを目的に活動してきた。

そこで本研究においては、「看護・保健科学研究誌」第1巻～第7巻までの論文140編のテーマの領域、全著者の所属、筆頭著者の所属、掲載論文テーマと著者、キーワードの分類等を整理することにより、今後の看護学の発展につなげることを目的とした。

### I. 「全国 看護管理・教育・ケアシステム研究会」10年の歩み

平成9年から現在までの研究会の経緯及び学術論文誌の沿革を表1に示した。

社会的背景により、平成9年1月1日、研究会の前身となる「在宅看護・ケア研究協議会」を有志5人により発足した。その後、平成11年4月に「在宅看護研究協議会誌」及び「在宅ケアを支える社会資源・その活用に対する認識度とケアシステムのあり方」を発刊し、同年5月に全国的な研究会とすべく「全国看護管理・教育・ケアシステム研究会」（資料1）に名称を改め、「在宅看護管理とケアシステムに関する指標と提言」を発刊した。

更に平成13年2月15日、ISSN 1345-983Xの国際標準逐次刊行物番号を取得し、キー・タイトル Kango, hoken kagaku kenkyū が通知されたことにより、平成13年3月1日、学術論文誌「看護・保健科学研究」Journal of Nursing Health Science Research（資料2）（資料3）第1巻第1号を発行し、国際標準逐次刊行物として続刊中である。

このたび、第1巻～第7巻の計11誌を締め括り、内容を分析した。これまでの研究会10年の積み重ねにより、基礎となる時期を通過したと判断したので、平成19年4月1日から研究会を学会に昇格させて、学術集会を開催する。

更に引き続き、学術論文誌「看護・保健科学研究誌」を通号12号より全国看護管理・教育・地域ケアシステム学会より発刊するよう企画している。

表 1. 平成 9 年から現在までの研究会の経緯及び学術論文誌の沿革

平成 9 年 4 月 1 日	<p><b>研究会の前身となる「在宅看護・ケア研究協議会」を発足</b>          主要メンバー：看護専門職有志 5 名で発足した。</p>
平成 11 年 4 月 15 日	<p><b>在宅看護・ケア研究協議会誌第 1 号「在宅看護・ケアに対する指標と提言」を発刊</b>          Care を、【Communication (対話), Affection (愛情), Reliability (信頼), Efficiency (効率)】すなわち《 C・A・R・E 》として、看護専門職と高齢者に対するアンケート調査および入院患者の看護をとおして、在宅看護・ケアに対する提言をまとめた。</p>
平成 11 年 4 月 20 日	<p><b>平成 10 年度政策医療振興財団研究費助成による研究報告書「在宅ケアを支える社会資源・その活用に対する認識度とケアシステムのあり方」を発刊</b>          在宅ケアのシステム化、社会資源の効率的な活用からの「在宅看護・ケア社会」を展望し、在宅看護・ケアへの提言を行った。</p>
平成 11 年 5 月 1 日	<p><b>「全国看護管理・教育・ケアシステム研究会」に名称を改め発足</b></p>
平成 11 年 5 月 6 日	<p><b>研究会誌第 1 号「在宅看護管理とケアシステムに関する指標と提言」を発刊</b></p>
平成 13 年 2 月 15 日	<p><b>研究会誌について ISSN 番号を取得</b>          ISSN 番号（国際標準逐次刊行物番号：International Standard Serial Number）は、国際標準化機構（ISO）が定める国際規格の識別番号である。この取得に伴い、国立国会図書館収集部（ISDN 日本センター）から全国看護管理・教育・ケアシステム研究会会長橋本和子宛てに、以下の番号とキー・タイトルが通知された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際標準逐次刊行物番号                      ISSN    1345-983X</li> <li>2. キー・タイトル                                      Kango, hoken kagaku kenky-u</li> </ol>
平成 13 年 3 月 1 日	<p><b>研究会誌「看護・保健科学研究誌 Journal of Nursing Health Science Research」編集長 橋本和子により創刊</b>          現在、国際標準逐次刊行物として続刊中である。</p>

## II. 看護・保健科学研究誌の内容

1. 発行巻と論文数は表 2 のとおりである。

第 1 巻～第 4 巻までは、年 1 回定期に発刊した。掲載論文数は、第 1 巻 7 編、第 2 巻 9 編、第 3 巻 15 編、第 4 巻 11 編であった。しかし、2005 年発刊の第 5 巻からは、論文応募数が急増し、掲載論文数第 5 巻第 1 号 17 編、第 2 号 12 編、第 6 巻第 1 号 12 編、第 2 号 12 編、第 3 号 10 編、第 7 巻第 1 号 13 編、第 2 号 22 編となり、合計 11 誌、掲載論文総数 140 編であった。

表 2. 発行巻と論文数

巻号数	通号	発行	掲載論文数	
第 1 巻 第 1 号 (Vol.1 No.1)	第 1 号	2001 年 3 月 1 日	7	
第 2 巻 第 1 号 (Vol.2 No.1)	第 2 号	2002 年 3 月 1 日	9	
第 3 巻 第 1 号 (Vol.3 No.1)	第 3 号	2003 年 3 月 1 日	15	
第 4 巻 第 1 号 (Vol.4 No.1)	第 4 号	2004 年 3 月 1 日	11	
第 5 巻 第 1 号 (Vol.5 No.1)	第 5 号	2005 年 3 月 1 日	17	29
第 5 巻 第 2 号 (Vol.5 No.2)	第 6 号	2005 年 8 月 1 日	12	
第 6 巻 第 1 号 (Vol.6 No.1)	第 7 号	2006 年 1 月 15 日	12	34
第 6 巻 第 2 号 (Vol.6 No.2)	第 8 号	2006 年 2 月 15 日	12	
第 6 巻 第 3 号 (Vol.6 No.3)	第 9 号	2006 年 3 月 1 日	10	
第 7 巻 第 1 号 (Vol.7 No.1)	第 10 号	2006 年 10 月 15 日	13	35
第 7 巻 第 2 号 (Vol.7 No.2)	第 11 号	2007 年 3 月 1 日	22	
計 11 誌			140	

2. 論文テーマの領域別については、表 3 と図 1 に示した。

論文数が一番多いのが、看護教育 32 編 (22.9%)、次いで看護管理 20 編 (14.3%)、母性看護 17 編 (12.1%)、老年看護 16 編 (11.4%)、小児看護 13 編 (9.3%)、地域看護 10 編 (7.1%)、成人看護 10 編 (7.1%)、家族看護 7 編 (5.0%)、精神看護 5 編 (3.6%)、学校保健 2 編 (1.4%)、在宅看護 1 編 (0.7%)、環境保健 1 編 (0.7%) であった。

表 3. 論文テーマの領域について

	看護教育	看護管理	母性看護	老年看護	小児看護	地域看護	成人看護	家族看護	精神看護	学校保健	在宅看護	環境保健	その他
論文数	32	20	17	16	13	10	10	7	5	2	1	1	6
割合	22.9%	14.3%	12.1%	11.4%	9.3%	7.1%	7.1%	5.0%	3.6%	1.4%	0.7%	0.7%	4.3%

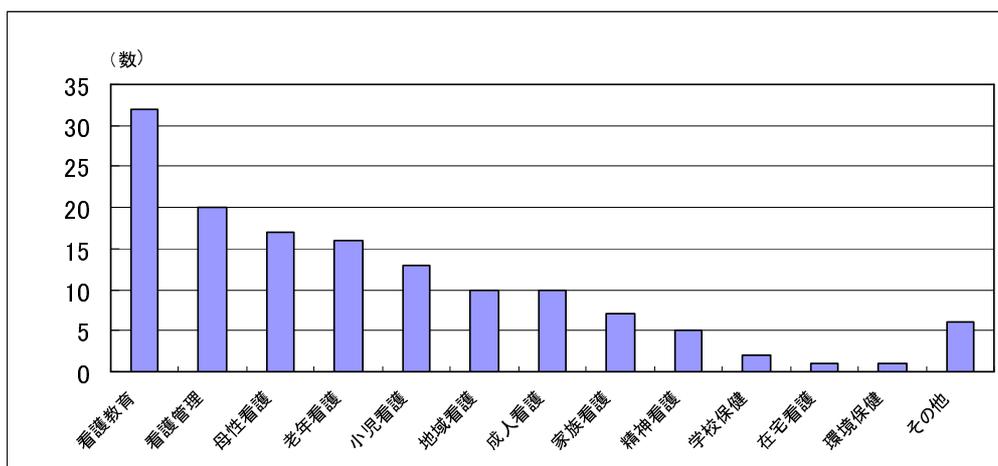


図1. 領域別の論文数

### 3. 全著者の所属

全著者の所属を表4、図2に示した。

教育機関 78.1%、臨地 13.8%、学生 6.0%であった。教育機関の内訳は、大学 235人 (61.2%)、短大 43人 (11.2%)、専修学校 21人 (0.3%) 等であった。臨地では、医療機関所属が 31人 (8.1%) であった。

本学術研究誌の特徴は、全著者の 78.1%が教育研究期間に所属し、掲載数が極めて多い点である。今後、学術学会として期待するためには、この点を堅持しつつ、臨地で勤務している看護専門職や大学院生を巻き込んだ和気藹々活発学会として社会に提言できるものを創造していくことである。

表4. 全著者の所属

	教育機関 300 (78.1%)				臨地 53 (13.8%)				研究機関等	学生 23 (6.0%)		その他	海外 (再掲)
	大学	短大	専修学校	高等学校	医療機関	老人保健施設	保健所等	学校(養護)		大学院生	学部生		
人数	235	43	21	1	31	4	17	1	2	19	4	6	7
割合	61.2%	11.2%	5.5%	0.3%	8.1%	1.0%	4.4%	0.3%	0.5%	4.9%	1.0%	1.6%	1.8%

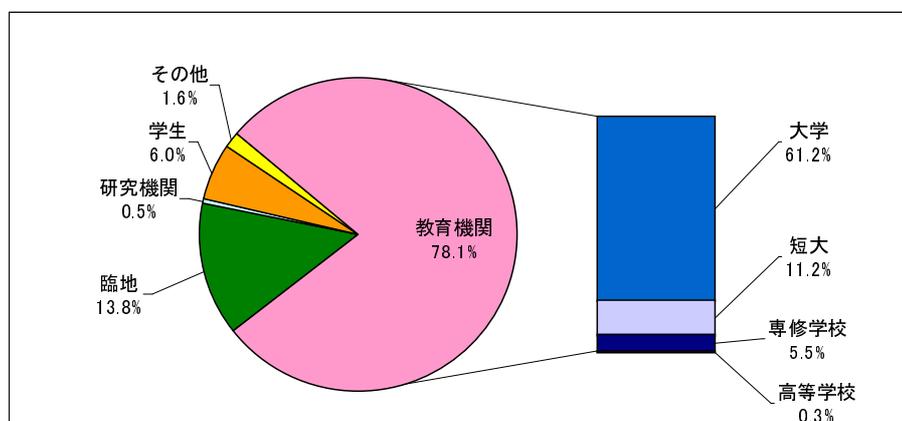


図2. 全著者の所属

#### 4. 筆頭著者の所属

筆頭著者の所属を表5、図3に示した。教育機関85.0%、大学院学生7.9%、臨地5.7%であった。教育機関の内訳は、大学92人(65.7%)、短大15人(10.7%)、専修学校11(7.9%)等であった。臨地では、医療機関7人(5.0%)、大学院生11人(7.9%)であった。第1巻～第7巻の内訳は表7のとおりである。

表5. 筆頭著者の所属

	教育機関 118 (85.0%)				臨地 8 (5.7%)				研究機関等	学生 11 (7.9%)		その他	海外 (再掲)
	大学	短大	専修学校	高等学校	医療機関	老人保健施設	保健所等	学校(養護)		大学院生	学部生		
人数	92	15	11	1	7	0	0	1	1	11	0	1	1
割合	65.7%	10.7%	7.9%	0.7%	5.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%	7.9%	0.0%	0.7%	0.7%

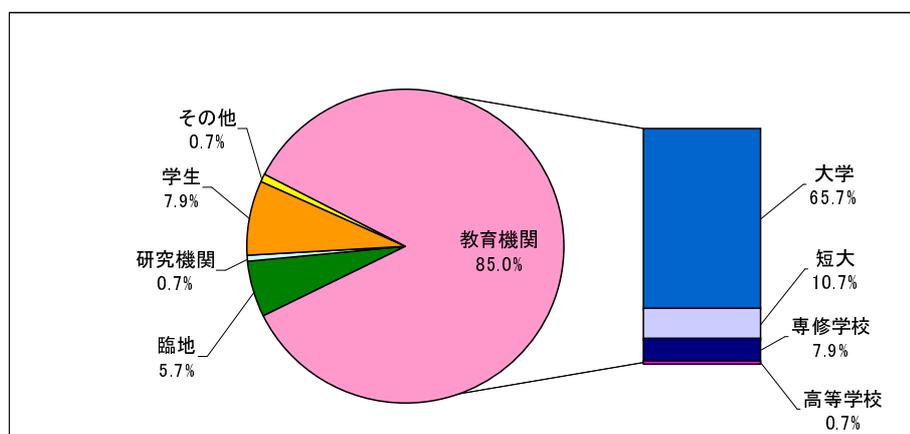


図3. 筆頭著者の所属

### III. キーワードの分類

第1巻～第7巻計11誌の掲載論文140編(資料4)のうち、キーワードの記載のあった131編486語について、2種類の分類を行った。

A分類は(表6)、全キーワードをカテゴリ別に分類し、1.環境、2.人、3.教育・キャリア、4.ケア実践・能力、5.疾患・医療、6.身体、7.健康・自立・生活、8.自己・心理・情動、9.家族・養育・役割、10.その他の10カテゴリと37のサブカテゴリに分けられた。

B分類は(表7)、看護学教育の領域別に1.看護教育(31編)、2.看護管理(20編)、3.老年看護(15編)、4.母性看護(14編)、5.小児看護(11編)、6.地域看護(10編)、7.成人看護(9編)、8.家族看護(7編)、9.精神看護(5編)、10.学校保健(2編)、11.在宅看護(1編)、12.環境保健(1編)、13.その他(5編)に分類した。

表 6. キーワードの分類 A ; カテゴリー別分類

( ) は数を示す

カテゴリー	サブカテゴリー	キーワード
1.環境 (8項目)	1)地域特定	韓国 (4), 日本 (3), ウガンダ, ハワイ, スウェーデン, フィリピン人, 日本人, 海外, 青年海外協力隊, 日系人の移住と生活, 日本人の妊産婦の生活, アメリカ合衆国・ノースウエスト地域の調査
	2)場	告知場面, ケア環境, 施設, 小児病院, 診療所, 老人保健施設, 介護老人保健施設 (2), 居場所 (2), イエーテポリ大学
	3)制度・政策	老人福祉施策, 介護休業制度, 育児休業制度, 再雇用制度, 妊婦届, 地域保健法
	4)ソーシャルサポート・ネットワーク	ソーシャル・サポート (2), 社会参加 (2), 介護ネットワーク, 子育て支援, 次世代育成力, 短大の地域貢献, 地域連携, ネットワーク, 社会体制, 社会的支援, バリアフリー, デイサービスの活性化
	5)社会	少子化, 少年犯罪問題, 農村社会, 国民医療費, 受療率, 情報源
	6)文化	安全文化, 文化背景
	7)生態系・環境	エコシステム, 地震災害, 生態系, 構造
	8)IT 関連	IT 活用 (2), オフ会 (2), 電子メール
2.人 (7項目)	9)学生に関連	看護学生 (10), 大学生 (3), 学生 (2), 看護系大学生, 看護大学生
	10)看護師	看護師 (看護師) (4), 看護職, 看護専門職者, 看護管理者, 看護師長, 熟練看護婦, 中高年看護師, 中高年看護職者, 新卒看護師, 新人看護師, 訪問看護師, 養護教諭 (2), 看護教師
	11)専門職	作業療法士 (3), リハビリテーション医師
	12)ケアの対象	妊婦 (3), 手術後患者 (2), 障害児 (者) (2), 末期癌患者 (2), 終末期患者, 精神障害者, 患者, 回復にある患者, 慢性疾患患者, 乳がん患者, 産婦, 褥婦, 新生児, 通所者, ユーザー
	13)成長・発達・ライフサイクル	子ども (2), 思春期 (2), 中高年, 中高年者, 高校生, 高齢者・若者・中年の差, 中学生, 老化, 老年期, 女性高齢者, 分娩期, 世代, 年代, 年代比較, 発達段階, 自閉症の初期発達
	14)高齢者	高齢者 (10), 在宅高齢者 (4), 高齢者の幸福感, 高齢者体験, 高齢者理解, 高齢者の性規範, 認知症高齢者の対応
15)かかわり	かかわり (関わり) (2), 学生との交流, 作業療法士と医師の関係, 相互作用, コミュニケーションスタイル	
3.教育・キャリア (2項目)	16)教育・看護教育・実習	臨地実習 (5), 学び (4), 看護教育 (3), 老人看護実習 (2), 成人看護学実習 (2), 教育的対応 (2), 継続教育 (2), 相互評価 (2), 基礎看護技術 (2), 大学教育 (2), 基礎看護実習, 基礎看護学実習Ⅱ, 母性看護学実習, 看護実習, 老年看護学演習, 老年看護学, 看護系大学, 教育介入, 教育, 自己教育力, 実習目標達成, 感染管理教育, アサーティブ,

		指導方法, 影響要因, グループダイナミクス, グループ学習, 学内演習, 紙上患者
	17)キャリア	キャリア (2), キャリアニーズ, キャリア発達, 勤務年数, パーンアウト, リアリティショック, 力量, 力量の形成過程, 退職, 職務満足度
4.ケア実践・能力 (4項目)	18)看護・実践・能力	看護 (4), カウンセリング (2), 災害看護, 小児看護, 訪問看護, 外来看護, 家族看護, サイコセラピューティックな看護, 精神 (心の) 看護 (2), 精神療法的な看護, 看護実践能力, 看護管理実践能力, 看護管理者基盤能力, 看護の展開, 看護過程, 看護ケア, 看護基本技術, 看護師の役割, 看護カウンセリング, ケア技術, 保健指導, 包帯交換, 清拭, 体位変換, ターミナルケア, 口腔ケア, 摂食・嚥下リハビリ, 救急処置, 退院支援, 問題解決, 観察結果, 養護実践, 保健活動
	19)その他の実施・ケア提供	アロマセラピー, 飲酒教育, 介護予防, 処置, スタンダードプリコーション, レクレーションリハビリ, リスクマネジメント
	20)看護研究・研究手法等	共分散構造分析 (4), KJ法 (3), パス図 (2), 看護研究, 視覚アナログ尺度, 主因子分析, 時間的展望尺度, 縦断的検討, ケーススタディ, 事例研究, 日常生活ストレス尺度, フィンクの危機理論, PCG モラールスケール, KOMI チャート, プロセスレコード, マトリックス, ペプロウ発達モデル, 看護・保健科学研究誌, 全国看護管理・教育・ケアシステム研究会, キーワード分類, 学術論文, フェイス・スケール, 生活時間調査
	21)管理	コスト意識 (3), 材料費 (3), 人件費 (3), 節約 (2), 投入 (2), 組織の対応, 保健師配置人数
5.疾患・医療 (2項目)	22)疾患・症状	慢性疾患 (2), 悪性疾患, 結核, 2型糖尿病, 乳癌, 前立腺がん, 関節リウマチ, 排尿症状, 浮腫, 更年期症状, 月経随伴症状, 月経前症候群, 身体運動の障害, 摂食・嚥下障害
	23)医療	医療チーム, 医療事故, 手術期シュミレーション, 手術後 48 時間, 前腕部留置式埋没型中心静脈カテーテル, 在宅癌科学療法, 服薬アドヒランス, 服薬コンプライアンス, 結核罹患の知識, 出生前診断, がん患者の治療方法選択
6.身体 (2項目)	24)身体	身体機能, 筋ポンプ, 咀嚼力, 義歯, 残存歯数, 嚥下機能維持, 核 DNA, ミトコンドリア DNA
	25)運動・活動	ジョーバ運動, ダイエット行動, 調理活動, 運動
7.健康・自立・生活 (4項目)	26)健康	健康寿命 (2), 精神的健康, 児童・生徒の健康意識, 健康, 健康診断
	27)生活・日常	生活ニーズ, 生活の基礎的方法, 生活行動, 生活背景, Daily Hassles, 日常出来事, 日常生活動作, 日常生活行動
	28)QOL	QOL(3), QOL の歴史, 痴呆高齢者の QOL
	29)自立	自立, 自立へのケア, 痴呆高齢者の自立

8.自己・心理・情動 (4項目)	30)ストレス・心理	コーピング, ストレス, ストレス対処行動, ストレス反応, ストレッサー, School Stress, 職業性ストレス, 対処行動, 対処方法, 適応
	31)倫理・ジレンマ	看護倫理 (2), 看護ジレンマ, ジレンマ (2), 倫理的ジレンマ, 倫理的課題方法, 心の葛藤, ブレ
	32)態度・情動・情意領域	癒し (2), 思いやり行動 (2), 感情 (2), 感情 (2), 死生観 (2), 認識 (2), セルフ・エスティーム (2), 意識 (2), 不安 (2), かわいそう, 価値観, 回想, 懐メロ, 感性の印象化, 間主観性, 気づき, ニーズ, 体験, 共感, ケアリング, 人生観, 尊敬, やりがい, 信頼, 心配, 痛み, 苦悩, 育児観, 飲酒についての認識, 今の関心, 生活満足度, 達成感, 勇気づけ, 予期的悲嘆, Problem Behavior
	33)自己・心理	自己, 自己決定, 自己診断, 自己成長, モラール, 心理過程, 心理的距離, イメージ形成, エゴグラム, 個別性, その人らしさ, ボディイメージ, やせによる変化期待, やせ願望
9.家族・養育・役割 (3項目)	34)家族	家族 (4), 家族環境, 家族意識, 家族危機, 核家族化, 患者家族, 家族支援, 家族介入
	35)性・役割	性別役割分担 (2), ジェンダー (2), 性, 性成長・発達, 役割, 性役割, 役割意識
	36)育児・養育	母性意識 (3), 養育 (2), 幼児期の家庭教育, 父親の役割, 母親の感情状態, 母親の思い, 母親の役割
10.その他 (1項目)	37)その他	アンペイド・ワーク, 人体モデル, 日本産肝てつ

キーワードは掲載当時の表現である

表 7. キーワードの分類 B ; 看護学教育の系統別分類 ( ) は数を示す

領域	キーワード
1.看護教育 (31編)	看護学生 (6), 臨地実習 (5), 学び (4), 看護教育 (3), 基礎看護技術 (3), 学生 (2), 教育的対応 (2), 相互評価 (2), 看護倫理 (2), KJ法 (2), 看護教師, 養護教諭, 患者, 手術後患者, 終末期患者, 家族, 妊婦, 産婦, 褥婦, 新生児, 看護師, 大学教育, 看護学生, 成人看護学実習, 看護系大学, 基礎看護学実習, 母性看護学実習, 老年看護学実習, 老年看護学, 基礎看護学実習Ⅱ, 学内演習, 教育介入, 指導方法, 実習目的達成, 力量, 力量の形成過程, 看護, 看護ジレンマ, 倫理的ジレンマ, ジレンマ, 倫理的課題方法, 問題解決, 看護過程, 紙上患者, グループ学習, グループダイナミクス, 看護研究, ケーススタディ, 事例研究, 共分散構造分析, プロセスレコード, マトリックス, エゴグラム, 観察結果, 手術期シミュレーション, 清拭, 救急処置, 体位変換, 包帯交換, レクリエーションリハビリ, 社会的スキル, 感性の印象化, イメージ形成, 認識, 気づき, 体験, 高齢者体験, 対処過程, セルフ・エスティーム, ニーズ, バリアフリー, 関わり, 今の関心, 自己診断, 生命の尊さ, 手術後 48 時間, 人体モデル, 年代比較, スウェーデン, イエーテボリ大学
2.看護管理 (20編)	コスト意識 (3), 人件費 (3), 材料費 (3), 継続教育 (2), キャリア (2), 節約 (2), 投入 (2), 看護者, 看護専門職者, 看護管理者, 看護師長, 熟練看護婦, 中高年看護師, 中

	<p>           高年看護職者，新卒看護師，新人看護師，訪問看護師，高齢者，            感染管理教育，自己教育力，大学教育，キャリアニーズ，キャリア発達，勤務年数，職務満足度，達成感，退職，リアリティショック，バーンアウト，アサーティブ，看護，訪問看護，看護ケア，退院支援，リスクマネジメント，スタンダードプリコーション，組織の対応，看護実践能力，看護管理実践能力，看護管理基盤能力，共分散構造分析，KJ法，職業性ストレス，ジレンマ，対処方法，共感，個別性，その人らしさ，やりがい，癒し，勇気づけ，信頼，尊敬，不安，コミュニケーションスタイル，相互作用，診療所，告知場面，安全文化，地域連携，            役割，年代，生活行動，医療事故，悪性疾患         </p>
3.老年看護 (15編)	<p>           高齢者 (6)，パス図 (2)，老人看護実習 (2)，韓国 (2)，作業療法士 (2)，日本，介護老人保健施設，老人保健施設，施設，農村社会，老人保健施策，ネットワーク，デイサービスの活性化，自立，自立へのケア，保健指導，日常生活，日常生活行動，調理活動，女性高齢者，通所者，看護学生，看護職，看護実習，痛み，性，高齢者の性規範，高齢者の幸福感，生活満足度，痴呆高齢者の自立，痴呆高齢者の QOL, Quality of Life, 認知症高齢者の対応，世代，老化，老年期，適応，咀嚼力，義歯，残存歯数，嚥下機能維持，2型糖尿病，生活時間調査，KOMI チャート，PCG モラルスケール，主因子分析，視覚アナログ尺度，構造，共分散構造分析         </p>
4.母性看護 (14編)	<p>           母性意識 (2)，ジェンダー (2)，性別役割分担 (2)，養育 (2)，感情 (2)，アメリカ合衆国・ノースウエスト地域の調査，日本人の移住と生活，日本人の妊産褥婦の生活，育児休業制度，介護休業制度，再雇用制度，社会体制，社会的支援，次世代育成力，子育て支援，核家族化，少子化，アンペイド・ワーク，文化背景，家族環境，妊婦，母親の感情状態，性別役割，母親の役割，母性意識，父親の役割，育児観，対処行動，月経随伴症状，月経前症候群，更年期症状，分娩期，縦断的検討，出生前診断，大学生，情報源，運動，浮腫，筋ポンプ         </p>
5.小児看護 (11編)	<p>           ソーシャル・サポート (2)，居場所 (2)，看護者 (2)，子ども (2)，中学生，障害児 (者) (2)，慢性疾患 (2)，思春期，発達段階，性成長・発達，自閉症の初期発達，幼児期の家庭教育，ケア環境，小児病院，小児看護，School Stress，ストレス対処行動，ストレス反応，日常生活ストレス尺度，ストレス，生活の基礎的方法，日常出来事，ハワイ，ウガンダ，            Daily Hassles，自己，自己決定，Problem Behavior，かわいそう，心配，間主観性，認識，母親の思い，癒し，教育，処置，少年犯罪問題         </p>
6.地域看護 (10編)	<p>           高齢者 (2)，在宅高齢者 (3)，健康寿命 (2)，社会参加 (2)，IT 活用 (2)，オフ会 (2)，海外，青年海外協力隊，保健活動，医療チーム，保健師配置人数，介護ネットワーク，短大の地域貢献，妊婦，中高年者，結核，結核罹患の知識，健康診断，児童・生徒の健康意識，ジョーバ運動，介護予防，身体機能，生活ニーズ，学生との交流，対処行動，災害看護，地震災害，電子メール，ペプロウ発達モデル，フェイス・スケール，妊娠届，地域保健法，国民医療費，受療率         </p>

7.成人看護 (9編)	QOL (2), 中高年, 関節リウマチ, 妻, 大学生, 乳がん患者, 慢性疾患患者, 回復にある患者, 終末期がん患者, 看護, 看護師の役割, 看護の展開, 乳癌, 前立腺がん, 在宅癌科学療法, 外来看護, 排尿症状, 服薬アドヒランス, 服薬コンプライアンス, 前腕部留置式埋没型中心静脈カテーテル, がん患者の治療方法選択, QOL の歴史, かかわり, 飲酒についての認識, 飲酒教育, 苦悩, 意思決定
8.家族看護 (7編)	家族 (3), 看護, 家族看護, 家族支援, 家族介入, 韓国, 日本, 看護系大学生, 看護学生, 在宅高齢者, 末期癌患者, 患者家族, 家族意識, 家族危機, 高齢者理解, フィンクの危機理論, コーピング, ストレス, 心の葛藤, 心理過程, 予期的悲嘆, ズレ, 意識, 役割意識, 死生観, 生活背景
9.精神看護 (5編)	看護カウンセリング (2), 高齢者, 精神障害者, 精神 (心の) 看護, 精神看護, 精神療法的な看護, サイコセラピューティックな看護, カウンセリング, ターミナルケア, セルフエスティーム, 回想, モラール, 生態系, エコシステム, 懐メロ, 日常生活動作, ユーザー, 自己成長
10.学校保健 (2編)	高校生, 養護教諭, 養護実践, ケアリング, ボディイメージ, やせ願望, ダイエット行動, やせによる変化期待
11.在宅看護 (1編)	摂食・嚥下障害, 摂食・嚥下リハビリ, 口腔ケア
12.環境保健 (1編)	ミトコンドリア DNA, 核 DNA, 日本産肝てつ
13.その他 (5編)	看護・保健科学研究誌, 全国看護管理・教育・ケアシステム研究会, 学術論文, キーワード分類, 日本, 韓国, 日本人, フィリピン人, 大学生, 看護大学生, 作業療法士, リハビリテーション医師, 価値観, 人生観, 死生観, 共分散構造分析, 時間的展望尺度, 作業療法士と医師の関係, 高齢者・若者・中年の差

キーワードは掲載当時の表現である

## 結 語

1. 研究の目的は第 1 巻～第 7 巻までの論文数 140 編のテーマの領域、全著者の所属、筆頭著者の所属、掲載論文テーマと著者、キーワードの分類等を整理することにより、「看護・保健科学研究誌」の学術論文の価値を見出し、今後の看護学の発展につなげることができた。
2. 全著者の 78.1%が教育研究機関に所属し、筆頭著者の 85.0%が教育研究機関に所属していることが特徴である。
3. キーワードの分類 A はカテゴリー別に、1.環境、2.人、3.教育・キャリア、4.ケア実践・能力、5.疾患・医療、6.身体、7.健康・自立・生活、8.自己・心理・情動、9.家族・養育・役割、10.その他等に分類した。その結果、環境に関するサブカテゴリーは 8 項目、次いで人に関するカテゴリー 7 項目と多かった。また、看護学教育の系統別に整理した分類 B では、看護教育に関するものが一番多く 24 編であり、「看護学生」をキーワードにしたもの 6 編、次いで「臨地実習」を挙げたものが 5 編、老年看護に関する「高齢者」が 6 編と多く用いられていることがわかった。